

別記様式 1

「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」参加申込書

令和 年 月 日

事業者名

代表者名（役職、氏名（ふりがな））

担当者名（代表者が兼ねる場合「同上」）

連絡先住所

〒

電話番号

メールアドレス

実施要領7の（1）に基づき、別添の出品調査書を添えて、「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」に申し込みます。

畜種 (該当するものに○を)	・養豚 ・養鶏(採卵鶏) ・養鶏(鶏肉)	・養牛(酪農) ・養牛(牛肉) ・その他()
飼料用米活用畜産物 ブランド名		

「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」 出品調査書

【各項目の記載は、畜産農家等が既に連携している飼料用米生産農家や実需者等と取り交わしている契約書や取引実績等を元に記載願います。また必要に応じて記載内容に係る関係書類の提出をお願いすることがございます。なお、畜産農家以外の場合は、項目4～6は記載が可能な場合のみご記入ください】

1. 畜産経営等の概要

(1)	事業者等名	
(2)	住所	

※生産部会や協議会で取組んでいる場合は、その組織名で記載願います。

2. 畜産経営等の種類及び米活用畜産物ブランド名

(1)	畜産経営等の種類と飼養数	経営の種類(1つに○) ・養豚 ・養牛(酪農) ・養鶏(採卵鶏) ・養牛(牛肉) ・養鶏(鶏肉) ・その他() 令和元年年間出荷頭(羽)数 ()頭(羽)
(2)	米活用畜産物のブランド名及びブランド化開始年度	ブランド名()年 ブランド化開始年度(西暦)年

※(1)の畜産経営の種類は、養豚(肥育豚、母豚)、養鶏(採卵鶏、肉用鶏)、肉用牛(繁殖牛、肥育牛)、酪農(搾乳牛)、その他()を記載願います。

※(2)の米活用畜産物のブランド名は既に販売しているものであり、また複数の畜種を総称するブランドの場合や個々の畜種でブランド名が違う場合など、各々わかるように記載願います。なお、販売促進チラシや商品写真の提出も願います。

3. 国産飼料用米の活用状況(令和元年度)【応募資格】

(1)	米活用畜産物の年間使用飼料総量(a、トン)	年間飼料総量 ()トン(a)
(2)	国産飼料用米の年間利用実績(b、トン)	国産飼料用米の年間使用量()トン(b)
(3)	国産飼料用米の給餌割合(b/a×100、%)	国産飼料用米の給仕割合()%(b/a×100)
(4)	国産飼料用米の仕入れ先 市町村別飼料用米生産農家等戸数、又は仕入れ先農協名、飼料会社名等	飼料用米生産農家戸数()戸 ()市・町・村 飼料用米生産農家戸数()戸 ()市・町・村 飼料用米生産農家戸数()戸 ()市・町・村 飼料用米生産農家戸数()戸 ()市・町・村 仕入れ先農協・飼料会社名() その他()
(5)	国産飼料用米の給餌状態(玄米、破碎等)	
(6)	年間給与期間(開始時の家畜の月齢～終了月齢または日齢)	

※(1)の給餌割合(%)は、畜種別に採卵鶏5%、ブロイラー5%、養豚5%、乳牛3%、肉牛等その他1%以上とする。

※(2)の国産飼料用米利用実績(トン)は、年間1トン以上とする。

※(3)の国産飼料用米の仕入れ先は、新規需要米取組計画書に基づく連携先(飼料用米農家)の情報を記載。

※(4)の給餌状況は、最終の形態の状況(玄米のまま又は玄米を破碎するなどの給与)を記載。

※(5)の年間給与期間の月齢は、日齢に変更可能とする。

4. 販路の確保(米活用畜産物の安定的な取引体制の構築)

(1)	実需者と連携したプライベートブランド商品 ※2-(2)とは別にPB商品があれば記入	プライベートブランド名()
		販売店舗名()
(2)	米活用畜産物ブランド商品の主な販売先と販売割合	ア 市場 ()% カ 生協 ()% イ 百貨店 ()% キ 外食業者 ()% ウ スーパー ()% ク WEB通販 ()% エ 精肉店 ()% ケ 直販 ()% オ 農協(直売所) コ その他 ()%
		() 具体的な販売店舗名等(スーパー 直売所など)
(3)	実需者と相対で事前に設定した販売価格についての取扱い (期中(1年間)での価格改定の有無)	

※①のブランド商品は既に販売しているものであり、また複数の畜種を総称するブランドの場合や、個々の畜種でブランド名が違う場合など、各々わかるように記載する。また、実需者との連携によりプライベート(PB)商品により他のものと差別化した商品がある場合は、その名称を記載願います。

※販売単価は、農家からの出荷価格とし、卸売市場等を経由しない直接販売の場合は、その販売価格です。

※米活用畜産物ブランド商品の主な販売先について、ア～コから選び、その割合を(%)で記載願います。

(例:ア(35)、イ(30)、ウ(20)、エ(15))

※実需者との価格設定は契約等でどのように決定されていますか。また、市況等に影響されずに1年間を通じて同じ価格なのか、それとも価格改定しているのか記載願います。

5. 耕畜連携の取組

(1)	畜産農家等と飼料用米農家等との連携状況 平成30、令和元年度の仕入先の変更	仕入れ先の変更(有・無) 変更ある場合 増()軒/減()軒 その他()
(2)	飼料用米の仕入量の増減等	イ 仕入れ量の増減(増・減) 具体的に:
(3)	飼料用米以外の地域循環等の取組 (稲わら、堆肥、糞尿等)	

※(1)の①のア. の飼料用米の仕入先を変更していない場合は「変更無」、仕入拡大の場合は「追加」、仕入変更は「変更有」とする。

※(1)の①のイ. の飼料用米の仕入量の増減等がない場合は「増減無」、仕入増加・減少は「増加」又は「減少」とする。

※(2)の②の飼料用米以外の地域循環等の取組があれば、その取組内容(種類・量、相手先など)を記載願います。

6. 付加価値の向上(飼料用米を活用した畜産物の販売増加)

		平成30年度(A) (年 月～ 年 月)	令和元年度(B) (年 月～ 年 月)
(1)生産したすべての畜産物について	I 1kg当たりの平均販売単価(円)		
	II 総販売数量(トン)		
	III 総販売額(万円)		
(2) 飼料用米を活用した畜産物	① 1kg当たりの平均販売単価(円)		
	② 飼料用米を使った畜産物の販売数量(トン)		
	③飼料用米を使った畜産物の販売額(万円)		
(3) (2)のうち、飼料用米に特化したブランド畜産物として販売しているもの	1. 1kg当たりの平均販売単価(円)		
	2. 飼料用米でブランド化したものの販売数量(トン)		
	3. 販売額 計(万円)		

※販売単価は、畜種毎に価格形成が異なるため、畜産農家から出荷した段階での販売価格とし、販売額から販売数量を除いて算出。なお、小売や消費者等へ直接販売する場合はその価格を記載願います。(税込価格)

7. 飼料用米を活用した畜産物ブランド化に向けた取組

※ブランド化の取組を実施してきた中で、①飼料用米の確保、②飼料用米の保管、③耕畜連携の取組、④販路の確保、拡大、⑤取引先との価格設定・交渉、⑥ブランド名の命名、⑦販売方法、⑧その他ブランド化に向けて工夫、努力した点や、その成果、課題など記入してください。

●記載が代表者でない場合は、確認等作業に必要なため以下に記載者名等の記入をお願いいたします。

記載者	事業者等との関係	
	氏名	
記載者の連絡先	TEL	
	FAX	
	メールアドレス	

※本出品調査表に記載頂いた情報は、本表彰の選定審査のみに使用するものであって、他の目的に使用しません。
また、公表に際しては事前に応募者への事前確認を経て対応致します。

「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」 出品調査書(記入例・留意点)

【各項目の記載は、畜産農家が既に連携している飼料用米生産農家や実需者等と取り交わしている契約書や取引実績等を元に記載願います。また必要に応じて記載内容に係る関係書類の提出をお願いすることがございます。】

1. 畜産経営の概要

(1) 事業者名	(記入例)日本養豚株式会社、日本養豚飼料用米協議会 など
(2) 住所	会社、または生産部会・協議会事務局の所在地を記入してください (記入例)〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-15 高栄ビル2F

会社名を記入してください。法人がない場合は個人名、生産部会や協議会で取組んでいる場合は、その組織名を記載してください

会社、または生産部会・協議会事務局の所在地を記入してください

※生産部会や協議会で取組んでいる場合は、その組織名で記載願います。

2. 畜産経営の種類及び米活用畜産物ブランド名

(1) 畜産経営等の種類と飼養数	経営の種類(1つに○) <input checked="" type="radio"/> 養豚(豚肉) ・養牛(酪農) ・養鶏(採卵鶏) ・養牛(牛肉) <input type="radio"/> 養鶏(鶏肉) ・その他()
出荷しているすべての畜産物の頭(羽)数を記入してください	年間出荷頭(羽)数 ((記入例) 約7,000)頭(羽)
米活用畜産物のブランド名及びブランド化開始年度	ブランド名((記入例) 日本米豚) ブランド化開始年度(西暦 (記入例) 2018)年

該当する経営体に1つ○をしてください。複数の畜種で出品する際は、1畜種ずつ提出してください

ブランド化している畜産物のブランド名と、その開始年を西暦で記入してください

※(1)の畜産経営の種類は、養豚(肥育豚、母豚)、養鶏(採卵鶏、肉用鶏)、肉用牛(繁殖牛、肥育牛)、酪農(搾乳牛)、その他()と、1年間に出荷した頭数を記載願います。

※(2)の米活用畜産物のブランド名は既に販売しているものであり、また複数の畜種を総称するブランドの場合や個々の畜種でブランド名が違う場合など、各々わかるように記載願います。なお、販売促進チラシや商品写真の提出もお願いします。

3. 国産飼料用米の活用状況(令和元年度)【応募資格】

(1) 米活用畜産物の年間使用飼料総量(a、トン)	年間飼料総量 ((記入例)2095.2)トン(a)
(2) 国産飼料用米の年間利用実績(b、トン)	国産飼料用米の年間使用量((記入例)385.8)トン(b)
(3) 国産飼料用米の給餌割合(b/a×100、%)	国産飼料用米の給餌割合(18.4)%(b/a×100)
(4) 国産飼料用米の仕入れ先 市町村別飼料用米生産農家等戸数、又は仕入れ先農協名、飼料会社名等	飼料用米生産農家戸数(3)戸 (八王子)市・町・村 飼料用米生産農家戸数(2)戸 (町田)市・町・村 飼料用米生産農家戸数()戸 ()市・町・村 飼料用米生産農家戸数()戸 ()市・町・村
	仕入れ先農協・飼料会社名((記入例)特になし) その他((記入例)自社の持つ田んぼで生産している)
(5) 国産飼料用米の給餌状態(玄米、破碎等)	(記入例1)自家で玄米を配合飼料に混合して給餌 (記入例2)配合飼料メーカーに依頼して破碎のうえ混合
(6) 年間給与期間(開始時の家畜の月齢～終了月齢または日齢)	(記入例1)肥育前期(3カ月齢)～肥育後期(6カ月齢) (記入例2)30日齢～240日齢

飼料用米を用いて飼養した家畜(肉豚・採卵鶏など)に給餌した令和元年度(1年間)の総飼料量(a)、飼料用米の年間使用量(b)、飼料用米の給餌割合(b/a×100)を記入してください

米の給餌形態、給餌方法を具体的に記入してください

※(1)の年間使用飼料総量は、飼料用米を含むすべての飼料量を記載してください。

※(2)の国産飼料用米利用実績(トン)は、年間1トン以上とする。

※(3)の給餌割合(%)は、畜種別に採卵鶏5%、ブロイラー5%、養豚5%、乳牛3%、肉牛その他1%以上とする。

※(4)の国産飼料用米の仕入れ先は、新規需要米取組計画書に基づく連携先(飼料用米農家)の情報を記載してください。

※(5)の給餌状態は、最終の形態の状況(玄米のまま又は玄米を破碎するなどの給与)を記載してください。

※(6)の年間給与期間の月齢は、日齢に変更可能です。

6. 付加価値の向上(飼料用米を活用した畜産物の販売増加)

		平成30年度(A) (平成30年2月～平成31年1月)	令和元年度(B) (平成31年2月～令和2年1月)
平均販売単価 (Ⅰ①1.) = 販売額 (Ⅱ②2.) × 1000 ÷ 販売数量 (Ⅲ③3.) で算出した数字を 記入してください			
(1) 全体の畜産物	I 1kg当たりの平均販売単価(円)	(記入例) 480円	(記入例) 510円
	II 総販売数量(トン)	(記入例) 454トン	(記入例) 503トン
	III 総販売額(万円)	(記入例) 2億1,792万円	(記入例) 2億5,653万円
飼料用米を活用した畜産物をすべてブランド化している場合は、(2)と(3)は同じ数字になります(記入例1参照)			
(2) 飼料用米を活用した畜産物	① 1kg当たりの平均販売単価(円)	(記入例1) 550円 (記入例2) 523円	(記入例1) 550円 (記入例2) 542円
	② 飼料用米を使った畜産物の販売数量(トン)	(記入例1) 294.6トン (記入例2) 294.6トン	(記入例1) 349.5トン (記入例2) 349.5トン
	③ 飼料用米を使った畜産物の販売額(万円)	(記入例1) 1億6,203万円 (記入例2) 1億5,408万円	(記入例1) 1億9,222万円 (記入例2) 1億8,943万円
(3) (2)のうち、飼料用米に特化したブランド畜産物として販売しているもの	1. 1kg当たりの平均販売単価(円)	(記入例1) 550円 (記入例2) 550円	(記入例1) 550円 (記入例2) 550円
	2. 飼料用米でブランド化したものの販売数量(トン)	(記入例1) 294.6トン (記入例2) 106トン	(記入例1) 349.5トン (記入例2) 132.2トン
	3. 販売額 計(万円)	(記入例1) 1億6,203万円 (記入例2) 5,830万円	(記入例1) 1億9,222万円 (記入例2) 7,271万円

※販売単価は、畜種毎に価格形成が違うため、畜産農家から出荷した段階での販売価格とし、販売額から販売数量を除いて算出。なお、小売や消費者等へ直接販売する場合はその価格を記載願います。(税込価格)

7. 飼料用米を活用した畜産物ブランド化に向けた対応

(記入例) 飼料用米を使用することで、オレイン酸の高い良質な豚肉が生産できることから、飼料用米の取り組みを始めました。以前から進行のあった、地元の稲作農家に依頼し、はじめは10t程度を試験的に給餌することから始め、現在は契約農家数も増えて約400t(約20%程度)の給餌量になっています。また、自社直売所では、耕種農家が生産した野菜なども販売し、よい関係を築いています。保管については、飼料保管庫を補助金を用いて農場敷地内に建設し、そちらに保管しています。夏場は品質が下がるため、できるだけ梅雨前までに使用し、あとはMA米などを使って給与量を維持しています。別添でHPのプリントアウト、弊社のパンフレットをつけましたので、ご覧ください。

ブランド化の取組を実施してきた中で、①飼料用米の確保、②飼料用米の保管、③耕畜連携の取組、④販路の確保、拡大、⑤取引先との価格の設定・交渉、⑥ブランド名の命名、⑦販売方法など、工夫、努力した点・その成果・課題など、アピールや補足したい点がありましたら積極的に記入してください。また、パンフレットやHPのプリントアウト(URLでも可)など、審査の資料となるものがあれば添付してお送りください。

※ブランド化の取組を実施してきた中で、①飼料用米の確保、②飼料用米の保管、③耕畜連携の取組、④販路の確保、拡大、⑤取引先との価格設定・交渉、⑥ブランド名の命名、⑦販売方法など工夫、努力した点や、その成果、課題など記入してください。

●記載が代表者でない場合は、確認等作業に必要なため以下に記載者名等の記入をお願いいたします。
(記載者が代表者の場合は、記載する必要はありません。)

記載者	事業者との関係	
	氏名	
記載者の連絡先	TEL	
	FAX	
	メールアドレス	

※本出品調査表に記載頂いた情報は、本表彰の選定審査のみに使用するものであって、他の目的に使用しません。また、公表に際しては事前に応募者への事前確認を経て対応致します。